

募集の対象・表彰の種類

東日本大震災などの災害から、都市との交流を通じて復興を目指す取組も表彰の対象となります。

オーライ!ニッポン大賞 都市と農山漁村の共生・対流に関する優れた取組。 個人でも団体でも応募できます。団体は法人格の有無を問いません。

- グランプリ** (内閣総理大臣賞・申請予定) **1件** 副賞 **20万円**相当
- オーライ!ニッポン大賞** **3件程度** 副賞 **5万円**相当
- 審査委員長賞** **5件程度** 副賞 **3万円**相当

3つの部門 (部門を重複して応募できます)

| | | |
|---|--|---|
| <h4>学生・若者かつやく部門</h4> <p>主に30代までの若者の活躍により推進されている活動。</p>  | <h4>都市のチカラ部門</h4> <p>主に都市側からの働きかけによって推進されている活動。</p>  | <h4>農山漁村イキイキ実践部門</h4> <p>主に農山漁村側からの働きかけによって推進されている活動。</p>  |
|---|--|---|

オーライ!ニッポン大賞は、都市と農山漁村の交流の取組すべてが対象です。様々な分野からの応募をお待ちしています。たとえば、グリーン・ツーリズム、企業・大学等の社会貢献、コミュニティ活動、2地域居住や定住の促進、起業と雇用(農林漁家民宿・レストラン等)、環境保全(棚田や里山・里海など)、教育(体験型教育旅行、キャリア教育、環境教育等)、農商工連携、伝統文化や食文化の発掘・保全・活用、医療福祉との連携、等々。

オーライ!ニッポン ライフスタイル賞 UJIターンにより都市部から移住するなどして、農山漁村地域で魅力的なライフスタイルを実践している個人。

- たとえば・・・
- 交流イベントや古民家活用等を通じて、移住者や交流人口の増加に貢献している人。
 - 農山漁村の地域資源を活かして起業(民宿、レストラン、体験ビジネスなど)している人。
- 等 **3件程度** 副賞 **3万円**相当



オーライ!ニッポン(都市と農山漁村の共生・対流)とは?

都市(まち)と農山漁村(むら)の往来(おうらい)を活発にすることで、日本の元気(All right)をめざす国民運動です。「共生」は都市と農山漁村が共に支え合う様を、「対流」は相互の交流が絶え間なく繰り返される様を、表現しています。

募集要領と応募用紙

「オーライ!ニッポン会議」のホームページ (<http://www.kouryu.or.jp/ohrai/>) からダウンロードできます。インターネットに接続できない方には、ファックスまたは郵送でお送りしますので、事務局までご依頼ください。

応募先 お問合せ **オーライ!ニッポン大賞事務局**
〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町45
神田金子ビル5階 まちむら交流きこう内
Tel03-4335-1985 Fax03-5256-5211
<http://www.kouryu.or.jp/ohrai/> e-mail:ohrai@kouryu.or.jp

募集期間延長

平成26年9月26日(金)締切



第12回 オーライ!ニッポン大賞

「都市と農山漁村の共生・対流」の優れた取組を表彰します



オーライ!ニッポン会議はまちとむらの往来を応援します



養老孟司 代表
(東京大学名誉教授)

平野啓子 副代表
(語り部・かたりすと)



安田喜憲 副代表
(東北大学大学院教授)

主催：オーライ!ニッポン会議(都市と農山漁村の共生・対流推進会議)、農林水産省
協賛：一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構
後援(予定)：総務省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、環境省、
一般社団法人日本経済団体連合会、全国知事会、全国市長会、全国町村会

「オーライ!ニッポン会議」の事務局を構成する22団体
(一財)地域活性化センター (公社)全日本郷土芸能協会 (公財)伝統文化活性化国民協会 (一財)日本青年館 (公財)日本修学旅行協会
(公財)全国修学旅行研究協会 (公財)育てる会 (公財)パブリックヘルスリサーチセンター (公社)日本青年会議所 日本商工会議所
全国商工会連合会 (一財)伝統的工芸品産業振興協会 (公社)日本観光振興協会 (一財)地域開発研究所 (公財)日本離島センター
(公社)都市計画協会 (公社)日本環境教育フォーラム (一財)農村開発企画委員会 全国土里ネット(全国土地改良事業団体連合会)
全国森林組合連合会 (一財)漁港漁場漁村総合研究所 (一財)都市農山漁村交流活性化機構

オーライ！ニッポン大賞

都市と農山漁村の共生・対流に関する優れた取組を表彰

グランプリ
(内閣総理大臣賞)
おうしゅうグリーン・ツ
ーリズム推進協議会
(岩手県奥州市・平泉町)
農山漁村イキイキ実践部門



農村生活体験型の教育旅行を、前身の組織から数えて25年にわたって受け入れている。1市1町の6つの地区協議会の連合体へと組織を拡大し、400人規模の受入が可能。子どもたちを家族同然に扱い、受入後の学校訪問や交流会も実施。震災から2カ月後には受入を再開し、長年交流を続けてきた学校からの支援を励みに、安全管理体制の強化や誘致活動等に努めた結果、平成25年に震災前の受入規模を回復した。

**歯舞地区マリン
ビジョン協議会**
農山漁村イキイキ実践部門 (北海道根室市)



漁業者だけでなく、地域住民や、商工・観光・農業の関係者など、地域の諸団体と関係者が構成員となり、水産物のブランドづくり、環境保全、小中学生の体験学習など、幅広く活動を行っている。都市と漁村の交流にも取り組み、北方領土の視察団等を対象とした市場見学、潮干狩り体験、本土最東端パノラマクルーズ等のほか、大阪の高校生等を対象に漁家民泊と漁業体験を実施するなど、全国各地から体験等を受入。

**農業生産法人
(株)hototo**
農山漁村イキイキ実践部門 (山梨県山梨市)



ニューヨーク滞在中に、ビジネスマンや大富豪が週末の田舎暮らしを楽しむ「リトリート」というライフスタイルに遭遇。帰国後に実家のぶどう栽培を引き継ぎながら「週末農業スクール」を開始した。地元の高齢者を講師として活用しながら、高単価の授業料を実現。5年間の参加者数は、スクールで延べ400人、農業体験全体で延べ12,000人を超え、受講者からは15名の就農者も生まれた(2013年7月現在)。

**NPO法人五ヶ
瀬自然学校**
農山漁村イキイキ実践部門 (宮崎県五ヶ瀬町)



子どもたちを地域の力で健全に育成したいと考え、地域の自然を生かしたエコスクールや、郷土芸能と祭りの継承などを実践。故郷の誇りである自然や文化、人の温かみを、子どもたちの心に深く刻み込む。成長とともに町を離れる子どもたちが、町に戻って来られるようにするため、地元の杉材を活用したキット型ログハウスの開発、農産物のブランド化、加工品の開発など、「仕事づくり」にも取り組む。

審査委員会長賞

NPO法人信越トレイルクラブ (長野県飯山市)
農山漁村イキイキ実践部門



長野と新潟の県境に連なる山脈に、かつての峠道を復元し、全長80kmのトレッキングルートを整備。全線開通までに延べ2,000人以上のボランティアが整備に参加。新たな観光資源とするため、ガイドの登録、交通事業者や宿との連携を進める。

小原ECOプロジェクト (福井県勝山市)
学生・若者かつやく部門



福井工業大学との協働により廃村の危機に迫られた集落の再生をめざしている。古民家を修復・再生し、交流拠点として活用するほか、エコツアーの実施、ボランティアの受入、絶滅危惧植物の保全、登山道整備などに取り組む。

豊森(とよもり)実行委員会 (愛知県豊田市)
都市の子カラ部門



豊田市、トヨタ自動車、NPO法人の3者の協働で、農山村を起点とした人材育成講座「豊森なりわい塾」を2009年に開講。これまでに3期、計80名が参加。修了者の中には移住やUターン等により農山村での生き方を選択する人も。

鵜鷲(うさぎ)げんきな会 (鳥根県出雲市)
農山漁村イキイキ実践部門



住民らを根気よく説得して空き家を体験宿泊施設等に活用し、田舎ツーリズム、イベント、まちづくり講座等に取り組んだ結果、人口240人、高齢化率約60%の過疎地域に、過去4年間で21人のU・ターンの移住者を確保した。

(一社)西土佐環境・文化センター四万十楽舎 (高知県四万十市)
農山漁村イキイキ実践部門



廃校となった小学校の校舎を活用し、四万十川流域の環境と文化の生涯学習及び観光交流に取り組む。参加者は年3,500人、売上は年3,030万円(いずれも2012年度)。施設の指定管理に伴う補助金は一切受けない組織運営を実現。



オーライ！ニッポン ライフスタイル賞 農山漁村で魅力的なライフスタイルを実践する個人を表彰。



三浦勝治さん(68)
(宮城県塩竈市)

仙台から桂島に移住した直後に被災。観光客を呼び込むため、ボランティアの協力を得て、新たな海水浴場を自力で整備。

冬には、海水浴場の休憩所を使って、地元で養殖された新鮮な牡蠣が食べられる店を開店。



辰巳和生さん(27)
(長野県小谷村)

山村留学で小学校4年生から6年生を過ごした村に、大阪から移住。築150年の古民家に父親や居候らと暮らしながら、ゲストハウスを運営。畑や田んぼ、草刈や雪かきといった田舎生活を送りつつ、音楽活動やイベントの開催、ネットを使った宿や村の情報発信も。

を自己資金で整備し、年間50回程度の体験プログラムを実施、約1,000名の体験希望者を受け入れている。



嘉村則男さん(56)
(山口県山口市)

約20年前に帰郷。サラリーマンをしながら実家の農業に従事する傍ら、仲間とともに交流事業に取り組む。体験圃場や交流ハウス

を自己資金で整備し、年間50回程度の体験プログラムを実施、約1,000名の体験希望者を受け入れている。



濱口孝さん(60)
(長崎県五島市)

隠れキリシタンの伝統が息づく離島の小さな半泊集落に移住し、集落そのものを田舎暮らしのスクールにする

ことをめざす。自己資金を拠出して廃校舎をビジターセンター化し、飲食店と簡易宿所を開業。県内の離島航路会社と連携して着地型旅行を開発。